

根管治療について

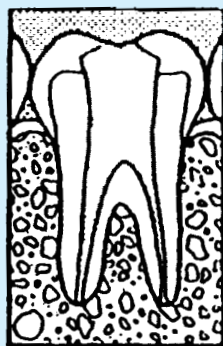
今回は、虫歯が進行した歯の神経の治療（根管治療）についてお話したいと思います。虫歯が進んでくると、まず水や甘いものがしみてきます。そのうち熱いものにもしみるようになってきます。こうなったら歯の神経を取らなければなりません。これを放っておくとズキズキ痛み出してきます。さらに放置すると歯の神経が死んでしまいます。

歯の神経を取る場合には麻酔をして、神経の通っていた細い穴を針のようなものできれいに掃除します。その後、神経の通っていた穴をバイ菌が繁殖しないよう、根の先まで密閉する必要があります。この治療は大変細かい作業で、しかも根の先の癒るのにあわせて治療を進めていくので、多少時間がかかります。途中で治療をやめてしまうと神経の通っていた穴からバイ菌が入り込み、根の先に病気ができてしまいます。神経のない歯の病気がかなり進行しても痛みを感じないことが多いのですが、根の治療をしっかりとしておくことは、家の土台を作るのと同じでとても大切です。

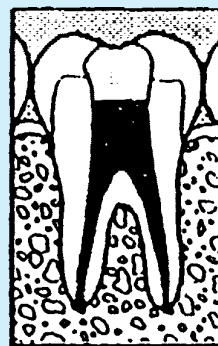
根の先の病気が癒ったら、中でバイ菌が繁殖しないように、根の中の細い穴を、きれいに消毒してからガッターパーチャポイントというもので密閉します。根の治療の終わった歯は、金属あるいはプラスチック等で根の上に土台をつくりその上に金属、白い陶器を焼き付けた金属、あるいはプラスチック等のかぶせ物をします。神経のない歯を長持ちさせるには、しっかり根の治療をしてピッタリした物をかぶせることが大切です。



①骨の中にうみの袋がある状態。



②根の治療をして歯の中のバイ菌を完全に殺してしまった状態。



③根の先までガッターパーチャという薬をつめた状態。この状態が根の治療が終わった状態。